

子どもたちの読書環境・体験を守る。 学校図書館の充実と学校司書の配置整備

子どもの本との出会いやさまざまな読書体験の場として、大きな役割を果たしている学校図書館。また不登校の子どもにどうても、居場所のひとつになりうるのではないかでしょうか。学校教育に欠かせない学校図書館の現状と、今後の課題について考えます。

学校司書や司書教諭がいる／いないで生まれる格差

「口口ナ禱になつてしまふ」とした頃、小学校の図書館を見学する機会を得て、その実情に愕然としました。本棚の本は横倒しになり整頓ができていない、古くなつた図鑑などがいまだに使われている、未配架の本が入ったままの段ボールが積まれている——。しかし、学校司書がいる小学校はこうではないといいます。いくつも見て回り、学校によって図書館環境に大きな差があるのを目撃したのです。

学校司書とは、学校図書館の運営全般にかかる専門職員を指します。一方、司書教諭は学校図書館の業務も行なう教員免許をもつた先生のこと。通常の授業を行ないながら兼務する場合も多く、ど

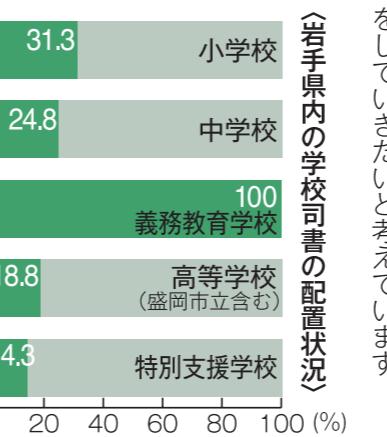


うしても学校図書館の仕事がおろそかになりがちな現実です。

2014年改正の学校図書館法によれば、「各学校に学校司書を配置するよう努めなければならない」とあります。にもかかわらず、実際には学校司書がない学校も多く、岩手県の場合、小学校全体の31.3%（94校／300校）にしか配置されていないのが実情です（2020年度）。学校ごと、市町村や県ごとに学校図書館の充実度の格差があるのも問題ですし、学校司書の配置自体が全国平均68.8%よりだいぶ低いということには危機感すら覚えました。

子どもにとって居場所ともなる 学校図書館の環境を整えたい

私も子どものときは学校の図書館をよ



く訪れていました。子どもの頃に本を読むという機会や体験はとても大切なものです。たとえば、本を買うのが経済的に厳しい家庭の子どもがいたとしても、学校図書館の本は借り放題です。どんな世帯環境にある子どもにも、平等に読書の機会や環境を与えるたいと思うのです。

さらに言うと、学校図書館は本を借りたり読んだりするだけの場所ではなく、子どもにとって居場所にもなると考えています。学校図書館の環境を整えるためにも、図書館業務を専任で行なう学校司書の必要性を周知し、きちんと配置することは性急に進めるべきです。

実際、人員配置も含め学校図書館の運

営体制を整えるには予算の問題も絡んで

きます。市町村立の小中学校に対しても、

適切な予算化によって学校司書の配置に

努めてもらえるよう働きかけを行なって

います。今後も各市町村の教育委員会と

連携して、図書の更新など学校図書館の

環境整備や子どもたちの読書活動の支援

をしていきたいと考えています。

2010年7月補欠選挙初当選

2018年 岩手県議会初の産休取得

2019年4期目再選

勤務。

1978年1月24日盛岡市(旧都南村)生まれ。

津志田保育園、津志田小学校、見前中学校、盛岡白百合学園高校、アメリカへ交換留学、上智大学卒業。都内アパ

レル企業を経て、JICA海外協力隊

としてボリビアの村役場(女性子どもも

岩手県男女共同参画センター)

活動。

吉田けい子議員

当时妊娠中だったにもかかわらず、同じように戸惑いや不安を抱える方たちのためにも「待っていられないからすぐに行動したい」と言つてくれた浅利さんの使命感と行動力にも大いに後押しされました。結果として、定例会で過半数の賛成を得て採択され、同年度中に作成し、2023年春から正式に導入される運びとなつたのです。

「リトルベビーハンドブック」についての現状

- 対象者

 - ・1,500g未満の低出生体重児
 - ・上記以外の低出生体重児で
希望する場合

- 配布先
 - ・医療機関
(周産期母子医療センターなど)
 - ・各市町村の母子健康課
(希望する場合)



▲私もサクラの苗木を植樹しました。

テーマ「緑をつなごう 輝くイーハトーブの森から」

岩手県では49年ぶり2回目となる第73回全国植樹祭が天皇皇后両陛下ご臨席のもと、6月4日に陸前高田市で開催されました。桑島法子さんによる宮沢賢治の童話『嘘十公園林』の朗読をはじめ子どもたちの発表や音楽、舞台などすべてに感動し、式典中は終始涙が止まりませんでした。東日本大震災の復興支援への感謝を全国へ発信し、豊かな森林を守り育み、次の世代を担う子どもたちへ確実につないでいくことを誓いました。

願」があります。当事者による「生の声」を直接届けるほうが県政を動かすことにつながるのでは、という直感も働き、「めんこいわらしへ」代表の浅利さんとともに2022年5月に要望書を送付し、6月の定例会にて「請願」を提出するところなりました。

「一緒に声をあげる」こと。
『県民の声』がもつ力を実感



早産などで小さく生まれた赤ちゃん（2500g未満の低出生体重児）とその家族のための「リトルベビーハンズブック」が、今年の4月から岩手県でも導入され、すでに配布が始まっています。これは母子健康手帳（以下、母子手帳）と一緒に使うサブブックで、低出生体重児やその子どもを育てるご家族を支援し、精神面にも寄り添うことを目的としています。

なぜ必要なのか、どのような経緯で岩手県での導入に至ったのかを詳しくお伝えしたいと思います。



母子手帳だけでは不十分

を取り入れてほしいとの思いを伝えに来てくれたのです。

「リトルベビーハンドブック」の導入・配布が始まりました

母子手帳は予防接種や検診の記録、発育や成長の確認・書き込みをするためのもの。また、育児に関する情報やアドバイスなども記載されています。しかし、小さく生まれた赤ちゃんにとって、月齢ごとの標準的な発育や成長がベースとなる母子手帳では足りない部分が多いのです。たとえば、正期産の子ども（平均体重約3kg、身長約50cm）を基準とした母子手帳の発育曲線は体重1kg、身長40cmがスタート。これより小さく生まれた場合、その時点で記入するできず悲しくなります。「首はいつすわりましたか?」「ハイハイをしたのはいつですか?」といった項目も、発達の遅れが表れることが多い出生体重児のご家族はつらい思いをしなくてはなりません。

このような話を耳にしたのが2022年3月。「青空サロン」に参加してくださいました、実際にリトルベビーを生み育てているおかあさんからでした。その方は「めんこいわらしつこ」というリトルベビーサークルを立ち上げたばかりで、岩手県でも「リトルベビーハンドブック」

**個人差を考慮した成長の見守りと
パパ・ママの心に寄り添つために**

感じている人もいること、全国的に「リトルベビーハンドブック」導入の動きが広がっていることを知り、県としてすぐ取り組む必要があると感じました（母子手帳の交付は市町村ごとに行なわれますが、その枠組みは県単位で作成されるため、市町村だけで対応できる事柄ではないのです）。

完成した「リトルベビーハンドブック」は、発育曲線は身長20cm、体重0kgから書き込むことができ、発達については自由記述。母子手帳には記載されていないような低出生体重児ならではの注意点や医療情報、先輩パパ・ママのコメントなど、リトルベビーを育てるご家族に寄り添った内容になっています。当事者団体の方々の意見も多く取り入れ、表紙には、実際のリトルベビーの実寸大の手や足をスタンプ代わりに使用。その小ささにはじいんときます……。



▲輝く三陸の海を前に披露された子どもたちの創作ダンス。身にまとう異彩で彩られた衣装は、(株)ヘラルボニーさんプロデュース。